企画書　土浦市マスタープラン策定実習資料

提案者　（所属）MP 実習 1 班 ／（氏名）石村匠

プロジェクト名称	土浦まんなか復活計画−まちなか交流ステーションほっと One＋（重点整備計画）
現状(問題点,背景)	土浦駅西口と 2 階部分がペデストリアンによって繋がれているウララからは既にイトーヨーカドーが撤退し、平成 27 年に土浦市役所の移転が決定している。これによって商業の拠点から行政の拠点へと機能が移行していくことが予測される。 現在、土浦市にはまちづくりの拠点が存在せず、似たようなスペースとしてはモール 505 内の「まちなか交流ステーションほっと One」のみである。このスペースは土浦市の観光・イベント情報の発信スポットだが、モール 505 には人が流れていかないため利用が少ない印象である。
目的・趣旨	市役所の玄関口にまちづくりの拠点としてのスペースを設けることで土浦市のまちづくりのヴィジョンを土浦市民に情報発信する場、また市民の持つまちに対する要望などを意見できるスペースを目指す。 土浦市民のまちづくりへの関心を深めるとともに市民の気軽な交流の拠点、外部からの観光客に対して観光・イベント情報を提供。
内容	まちなか交流ステーションほっと One＋（約250㎡）の開設。 現在、モール 505 内にあるまちなか交流ステーションほっと One をペデストリアンデッキに面した市役所玄関口に新たな機能を持たせ「まちなか交流ステーションほっと One＋」として開設する。 〈施設内容〉 ・ 観光案内 ・ ギャラリー（地域模型などを展示、多目的なスペースとする） ・ オフィス（常駐スタッフ） ・ カフェ（委託） ・ オープンテラス ・ ガーデン 　運営は土浦商工会議所、土浦市、筑波大学の 3 つの団体共同で行う。土浦商工会議所が代表を務める現在のまちなか交流スペースほっと One のスタッフを常駐スタッフとし、土浦市は商工会議所への資金補助を行う。筑波大学は活動内容を 3 つの団体が共同で企画する定期的なワークショップや講師陣に大学教授等を迎えて行うまちづくりスクールを開催に関わる。これらの活動によって積極的に市民がまちづくりについて考える機会を設ける。さらにまちづくりスクールを筑波大学の授業と連携させることで学生が参加し、活発な活動となる事を狙う。 ワークショップ例）駅前ガーデンワークショップ 駅前ガーデンを利用して花やハーブ、フルーツなどを土の入れ替えなどを含めて体験、勉強できるワークショップ。 その他）観光の視点からのまちづくりワークショップなど
将来目標	まちなか交流ステーションほっと One＋をまちづくり、観光・イベント情報発信の拠点に土浦市民1人1人が「将来の土浦市はこうなってほしい」というまちづくりのヴィジョンを持ち、土浦市民、土浦を想う人全員でまちづくりを進めていくことを目標に掲げる。

期間	第一工程：運営方法の検討と決定　～平成27年市役所移転 第二行程：まちなか交流ステーションほっと One＋の開始　平成27年市役所移転完了～
場所	ペデストリアンデッキに面した市役所玄関口に約250㎡のまちなか交流ステーションほっと One＋を開設する。
対象者	土浦市民、外部からの観光客
運営主体	土浦市、土浦商工会議所（現まちなか交流ステーションほっと One の代表）、筑波大学 3 つの構成団体によって共同運営する。 協力団体：NPO 法人まちづくり活性化土浦、土浦市まちづくり市民会議
運営方法	ワークショップやまちづくりスクールの内容は 3 つの構成団体により決定する。 主な常駐スタッフは土浦商工会議所が代表を務める現まちなか交流ステーションほっと One のスタッフとし、まちづくりの専門知識をつけてもらい利用者に対応してもらう。また筑波大学都市計画の学生をアルバイトとして雇うことも考える。
イニシャルコスト	改装費用　約 700 万円
資金源	市予算
ランニングコスト	事務費・機材費・人件費
資金源	土浦商工会議所（土浦市から一部補助）